

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000945		
法人名	有限会社 Human-Effort		
事業所名	グループホーム自由の樹		
所在地	小樽市最上1丁目36番4号		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000945&SCD=320
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24 年 2 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を山・川に囲まれ自然に恵まれた環境にあり四季折々の景観を楽しむ事ができます。玄関先のベンチでは入居者様が行き交う方々と挨拶や会話を楽しみ地域交流の場にもなっています。又、保育園児や中学生・高校生・ボランティア訪問を含め近隣との交流を大切にしています。裏庭にて花や野菜を植え入居者様やご家族と一緒に花壇や畑の手入れ・収穫を行い家庭菜園の雰囲気味わって頂いています。冬には雪明りの街をイメージし入居者様と共に作り上げ夕方から素敵な光景を楽しませています。ホーム内には手作りの装飾やソファ・椅子を随所に設置しゆったりと自由に過ごせる空間づくりを行い暖かい家庭的な雰囲気を味わって頂ける様にしています。職員は「安心したその人らしい生活」の理念を第一に考え個々に合わせた食事の提供、入浴では好きな時間に入って頂くサービスを行っています。又、新入居時にはご家族より生活歴を含めた情報をできるだけ多く頂き入居者様のニーズに合わせた支援を行っています。又、系列グループホームとの情報交換や社内研修グループホーム協議会主催の相互研修を通じ良い所を積極的に取り入れ日々のケアに役立てています。ホームの行事には御家族様や地域の方々の協力を多々得られ恵まれた状況にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れた点、工夫点(評価機関記入)】

4つのグループホームを有する法人では、それぞれの地域にあったサービスを展開しながら、連携の取れた交流により、利用者の「安心したその人らしい生活」の支援の質を高めています。法人本部職員が各ホームに派遣職員として、職員間の交流を深めながらスキルの向上に寄与しています。ホーム内では、感染症対策に力を入れ、トイレなどの清掃・消毒に徹底した対応が行われています。地域との交流では、住民の方々の理解を支えられ町内のイベントに、また、ホームイベントなど、様々な事業での交流が続いています。保育園児や中学生などの交流も盛んですが、とりわけ中学校美術部の生徒から、プレゼントして頂いたキャンドルボールは、とかく殺風景となりがちな冬景色の中で、色鮮やかな明かりとなって利用者癒してくれました。総じて当ホームは「安心」と「自由」をモットーとした基本のサービスを迫及していることを強く感じられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ネームプレートの裏に理念を入れていつでも確認出来るようにしている。会議の際も職員同士で話し合いケアの理念に沿っているか確認を行ないながら実践に繋げている。	職員は理念を理解しており、地域密着型サービスの意義を踏まえて、日々のサービスの質向上に活かすよう努めています。また、理念の「安心したその人らしい生活」を支援することへの徹底した協力関係を垣間見ることが出来ます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	保育園児が、歌を披露したり、ホーム用に壁飾りなど作品を制作をし、持って来て下さる。社会体験の学生以外にもボランティアの方から連絡を頂いたりして交流を深めています。	法人グループが大切にしている地域との交流は、当ホームでも積極的に取り組みが行われています。保育園児との交流、雪景色を彩る中学校美術部のキャンドルボールのプレゼント、認知症介護に関わる相談など、地域の一人としての付き合いも続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して情報を地域の皆様に伝えて頂く事をお願い発信源になるようにしています。介護相談の方が直接見えた時には、詳しく説明をしたり見学をして頂き理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、第3木曜日に運営推進会議を開いており入居者様の様子やホームでの行事、今後の予定をお伝えしています。入居者様や御家族の相談事にもりより良いサービス向上に努めています。	定期的な開催により、ホームの状況など、出席メンバーの理解を得ていますが、運営に関わる意見交換などが少ないことが議事録から覗えます。また、会議の内容は議事録を玄関に掲示していますが、来訪できない家族への周知が不足しています。	折角の会議であり、出席者の活発な意見交換が望ましいと思慮します。また、家族の運営への参加を促すため、会議の議事録を家族全員に送付し、理解と関心を高める取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や相談がある時は、市役所や地域包括センターにアポイントを取り、連絡相談を行なっている。内容によって生活支援課の担当者とホーム内で本人を交えて相談を行なう事もあります。	法人グループの職員並びにホーム長は市の担当窓口に出向き、ホームの現況などの情報提供を行いながら、協力関係の構築に努め、サービスの向上を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加しホームに持ち帰り勉強会を行ない職員全体で知識の共有を図り、拘束する事なく、いつでも外出し気分転換が出来る環境を作っています。	職員の都合を優先させることなく、利用者本位を常に考慮したケアサービスが実践されています。個人的な外出にも即座に対応するなど、身体拘束のない「自由な暮らし」が継続されています。職員は研修などを通し、知識の共有が図られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加しておりホーム内でも虐待を行なわぬよう職員同士が、ケアを振り返りグレーゾーンとなっているものは無いが、情報の共有をしながらケアを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度の研修会に参加し、職員に周知する様努めています。又、後見人制度の手続きを行った御家族からの情報を聞き参考にさせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者を用いて項目ごとに確認を行っており、利用者や御家族の不安や疑問点には、詳しく説明し理解、納得を得てから同意を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、御家族入居者さんから意見を頂き職員が状況を速やかに管理者に報告し早急に対応できるよう努めています。	前回の課題である家族との意思の疎通は、会議で徹底を図るよう周知するなど、取り組みが始まっており、家族の面会時、意見や要望を十分に聞き取りメモに残しながら、サービスの改善に反映されるよう努めています。今後は、意見箱の利用の啓発や、運営推進会議の内容の周知による意思疎通も検討されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	言いやすい関係を作りに努め毎月会議を行ない職員から意見を聞ける体制を取っています。意見として、対応できる部分は、実行しており、現状では、困難な場合は今後の課題としています。	サービス上の課題、職員のシフトなど、忌憚のない意見交換により、ホーム運営の改善に反映されており、代表者、管理者と職員間は、風通しのよい関係が継続されています。足浴のバケツ購入への提案は、日常のサービスの中から生まれたものです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、資格取得に必要なサポートを行っており、資格に応じた給与体制をとっています。又、現状を把握出来るようユニット毎に、主任を配置し、全職員に情報が伝わる体制をとり情報を共有できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数に応じた、外部研修に参加しています。又、社内研修も行っており、全職員が知識の共有を図っています。介護に必要な知識、技術を随時研修として行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会研修や会議に積極的に参加する事で情報の交換ネットワーク作りを行っています。系列のグループホームの合同研修を通じてお互いのホームの長所短所を知り、又、相互間研修を行いサービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に御家族と一緒にホームに来て頂き、本人や御家族の希望や要望を話し合い安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、電話や面会を通じ御家族が困っていること、不安に感じている事を繰り返し耳を傾けながら話し合い信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に、御家族が必要としている。支援の把握に努めています。ホーム見学、食事体験引越しのお手伝い、保険証の住所変更手続き等のサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという事を意識し敬意を持ち自尊心を傷つけず過ごして頂いています。昔の職業や経験で得た知識を教わり共に行っております。本人が出来ないことは、支援し支えあい、生活しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、ホームでの行事に参加して頂き入居者様との時間を大切に頂いています。家族に対しての不安がある場合は、電話、手紙、写真などを利用し安心して頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	古くからの友人の方とは、手紙や電話、面会で交流を図られています。又、必要に応じて入居者様の状況を友人様にお話をして協力を得、理解して頂けるよう努めています。	外出時には、小樽市内の入り組んだ小路なども散策して、昔の建物の思い出や、以前にお付き合いの親戚宅へ寄り道するなどの回顧を大切にしながら、馴染みの人や場の関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、レクや食事の際職員が仲に入りコミュニケーションを図る事で、独立せず関わり合える支援をしています。日常生活の中でトラブルが生じた場合は、速やかな対応をとり関係の悪化を防いでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、近くに来られた際には、来訪して下さる御家族もおられます。退居される時も、新しく入居場所が見つかるまで、フォローに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の訴えが困難な場合でも話を聞いて気持ちを汲み取る努力をして、本人や御家族の思いを確認し少しでも答えるよう努めています。	利用者との会話による思いや意向の把握に努めており、家族の情報も大切に、役立たせています。入浴時の対話は、一対一の関係で特に大切な時間としています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活のリズムに合わせて今までの環境を変えずに過ごして頂ける様これまでの暮らしの把握をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士、情報を共有し、1日の過ごし方や心身状態、有する力を把握し、入居者様に合った生活をして頂いています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の思いや意見・希望を伺ってプランの作成にあたり、モニタリングでは職員と情報を交換したり、本人と御家族様の意見を聞き次のプランに生かしています。	細やかなアセスメントに裏打ちされた介護計画が立てられ、家族との対話も図られています。日常の介護記録では、計画に基づいたモニタリングが行われているなど、連動した記録が行われており、計画の見直しに役立っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分・入浴・排泄の状況、バイタル測定、生活の様子を記入しています。生活の変化に注意をし、情報を共有して、次のプランに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	住所変更や介護保険申請など行政の手続きが困難な御家族の代行を状況に応じて行うよう勤め、又、病院送迎や外出支援も行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と連携し、年2回避難訓練や消火活動の練習、学生ボランティア・保育児・音楽療法、フラダンスの来訪等に協力して頂きながら支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望された、かかりつけ医院の受診や往診を継続して受けられるよう支援し、希望のない方は、提携病院を紹介し、了解を得ています。	ホームでは従来のかかりつけ医への受診を支援しています。家族の都合によっては病院の送迎をして、受診内容は家族へ報告しています。また、ホームと提携病院及び派遣看護師との連携により、適切な医療が受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が、バイタル測定や健康管理をし、又、24時間いつでも連絡が取れる体制になっております。協力病院の看護師とも、状態の変化があった際には、経過や相談を行っております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病状の把握と確認を行なうため、管理者が面会をし、医師、看護師、御家族様と連携を取り早期退院に向けての準備をし、情報は、退院後の生活に役立つよう共有し、職員も面会に行っております。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合の指針について説明し、同意して頂いています。状況に応じて、入居者様、御家族様、主治医と相談し、今後の方向性を話し合い方針を共有し、連携を取っています。	入居時には、重度化した場合などの指針を家族に説明しています。これまでに看取りケアも数回体験していますが、都度、家族と医師、看護師などの会議が重ねられています。ホームでは、看護師が講師となって勉強会を通し、スキル向上に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による、心肺蘇生応急処置の研修会を行ない、又、AEDを導入し、ホーム内でも、全員が周知できる様、勉強会を行っております。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜を想定し、避難訓練を行ない、又、運営推進会議を通じ、消防、町内会長、近隣住民と連携を取り、入居者様の避難場所の確保を行います。セコムやスプリンクラーの設置があり、何かあれば、直ぐに駆けつけて頂けます。	ホームでは、災害対策を重点事項として、昼夜想定での避難訓練を年2回実施しています。あらゆる機会を通し、緊急時の協力要請を行い、臨場でのスムーズな避難ができるよう努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個人にあった話し方をし、プライバシーを損ねないようシチュエーションを考え、対応をしています。	「安心したその人らしい生活」を支援するため、経験豊かな利用者を尊敬し、人格の尊重とプライバシーの保護に力を注いでいます。利用者に対する話しかけには、特に細心の注意をした支援が行われています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、コミュニケーションを図り、会話の中から、本人の希望を引き出せるように、話題提供をし、希望を優先されるケアを行い、職員都合で決定する事の無いようにしております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の暮らし方を把握し、日々の行動から、その時々の変化について、職員同士が情報を共有し、連携を取る事で全体を把握しております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用したり、季節にあった洋服や化粧を勧める事で、その人らしい身だしなみができる様にしております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と話し合い食事作りも自ら行って頂ける様な声掛けをして、皮を剥いたり、お茶パックをセットしたりと実行して頂いています。出来ない方には、職員と一緒にやる事で達成感を感じて頂ける様配慮し、タオルたたみ等をして頂いております。	食事の下拵え、下膳、食器洗いなど、利用者に手伝いをお願いし、出来ることへの参加を促しています。利用者と一緒に職員も一緒に食事が行われ、楽しい会話と笑いが満ちています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に関しては、バランスよく食べて頂けるよう栄養士が献立を作っております。水分は、1日の水分量を把握し、嚥下体操や演歌体操を行なった後に摂取されたり入浴前後やおやつの際にも水分を摂って頂く習慣になっております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、必ず声掛けにて、口腔ケアをされ、出来ない方には、介助をしています。ブラッシングの指導を行う事で、歯肉の出血や、腫脹の予防も行っております。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを掴み、考慮してその方の習慣を生かして、他の方に気付かれる事が無いよう声掛けをし、汚染の回数を減らす事が出来る様になっています。又、尿路感染予防も視野にいれ支援を行っております。	管理者及び職員は、安心の暮らしの継続のため、出来るだけ利用者の自立排泄の支援をしています。利用者の排泄パターンを把握しながら、それとなく声かけ誘導により、トイレでの自立した排泄が継続されています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家事や嚥下体操を行う事で、毎日の運動になっています。排便の確認を行ない、便秘がちな方には、腹部のマッサージを行ったり、冷水、牛乳などを飲んで頂きます。状況によって、看護師の指示のもと下剤を調節を行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様が、希望される日にち、時間での入浴をして頂き、入浴剤などを入れ、ゆったりとした気分での入浴に心掛けております。入浴が困難な方には、複数の職員と連携を取りながら、入浴をしています。	利用者の清潔保持のため、週2回の入浴を支援していますが、入浴を拒む場合や体調を考慮しながら、適切な支援が行われています。一番風呂や同性介助など、利用者の希望を取り入れ、職員は入浴時の会話を大切にしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の好きな時間で、休んで頂ける様考えており、日中でもソファに横になり寛がれておられる方もおります。テレビを観ながらのうたた寝をされる方もおられます。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表で、どのような薬を飲んでいるか個人ファイルをいつでも見れる状態にしており、新しく追加になった場合は、その都度、変更をし、確認が出来る様になっております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクを通して、張り合いのある日々を過ごされたり、御家族様との面会や音楽療法に参加することで、昔の事を思い出され、楽しんで頂いています。生活歴から得意な事を役割とし、嗜好品等を引き出して気分転換等を行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望によって外出をしたりレク等で、公園やレストランでの外食を楽しまれています。玄関先での日向ぼっこや散歩をされたり、ホーム前を学生さんや町内の方、犬の散歩の方が通られる時には挨拶を通して交流を図っています。	降雪の多い冬季を除いては、利用者の希望を取り入れながら、散歩や玄関先の日向ぼっこ、また、ホーム主催のレクリエーションでは、町内の方々の参加とお手伝いを頂きながら、触れ合いを楽しんでいます。これらは、日ごろのストレス解消に大いに役立っており、笑顔も生まれます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、金銭の取り扱いについて説明を行い同意を得ています。買い物へ出かける際は、職員と一緒にいられ、精算をする際に、財布を渡し、支払いをして頂く事があります。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望され、番号が押せない場合は、職員がお手伝いし、電話を掛け家族の方が出てから、入居者様とお話ができる様にしています。職員から御家族に連絡をして、電話や手紙を依頼をする事もあります。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環境としては、入居者様が居心地良く、リビングにて過ごされている方に対して失礼のないようにテレビや音楽の音量に注意して生活しています。又、四季を感じられる作品を展示し季節感を感じられるようにしています。加湿器、空気清浄機を設置し、室内などの温度調整にも気を配っております。	広々とした居間のガラス越しに冬景色が広がり、中学生からプレゼントして頂いたキャンドルボールが、可愛らしく輝いています。職員はホーム内の清掃、特にトイレ清掃と消毒は、3時間おきと定めるなど、衛生面での気くばりを行っています。また、居間の壁面に保湿建材を導入しながら、湿度調整に配慮し、居心地良い共用空間作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチにて、入居者様同士が楽しそうに会話をしています。廊下の端はしには、1人掛けのソファを設置し、ゆったりと1人で座れるようにしたり、内玄関にも、ベンチを設定し、外の景色を眺める事が出来、天狗山を観られ季節感を実感されたり、1人で過ごされる場所の工夫をしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、以前から使い慣れているダンスやベッド、仏壇等を使用し、配置にも注意をし、これまでの生活と変わらないような配置を心掛け、不安を取り除き、心地良く居室にて生活ができる様、空間作りをしています。	居室には、家族の協力を得ながら、以前からの馴染みのペットや家具などが持ち込まれ、居心地良い安心の暮らしへの配慮が覗えます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境として、廊下などの幅は、車椅子の方同士が交差できる様に設計しており、歩行器や車椅子を自操される方達にも配慮をしています。居室やトイレには、目印を付け場所の認識をして頂けるよう工夫をしています。			